

今回は、10月21~22日に行われました AACMD について、日本大学松戸歯学部の大久保昌和先生に報告させていただきます。

第17回 AACMD 学術大会 in インドネシア 参加レポート

大久保昌和（日本大学松戸歯学部 有床義歯補綴学講座）

2017年10月21~22日の日程で The 17th Asian Academy of Craniomandibular Disorders (AACMD) and 2nd Indonesian Academy of Craniomandibular Disorders (IACMD) Scientific Meeting が、IACMD President の Prof. Laura S. Himawan 大会長と Dr. Ira Tanti プログラムチェア어의主宰により”Pain, Bruxism, and Sleep Apnea: Clinical Update”というテーマでジャカルタ市の中心地であり各国の大使館が立ち並ぶ Rasuna Said street にある JS Luwansa Hotel Jakarta のボール・ルームにて 250名以上の参加者を迎え盛大に開催された。日本からは日本口腔顔面痛学会の今村佳樹新理事長をはじめ十数人が参加した。

学術大会前日（20日）には昨年の ICOP でも開催した診断実習セミナーをインドネシアでも開催してほしいとのリクエストを受け、プレカンファレンスとしてインドネシア大学を中心としたアジア各国から若手歯科臨床医を集めて『Workshop on the clinical reasoning for diagnosing orofacial pain』が開催された。AACMD President の和嶋浩一先生の臨床診断推論の講義に引き続き、徳島大学の松香芳三先生と川崎市立井田病院の村岡 渡先生、そして私がファシリテーターとして複雑な口腔顔面痛患者のシナリオを提示して、参加した受講生と一緒に診断推論実習を行った。



熱心に指導をする和嶋先生と松香先生

学術大会初日は AACMD President の和嶋浩一先生と大会長の Prof. Laura S. Himawan よる開会の挨拶とゴングにつづき、インドネシア舞踊による歓迎儀式で幕が開いた。最初のセッションでは AACMD を構成する日本、韓国、台湾、フィリピン、インドネシア各国の代表が、それぞれの国における学会の活動や歯科睡眠医学のトピックについて報告した。日本からは日本口腔顔面痛学会新理事長の今村佳樹先生が学会の歴史や歯学部における口腔顔面痛学教育の現状を紹介した。

インドネシア舞踊による歓迎儀式



Keynote speaker には、オランダ ACTA (Academisch Centrum Tandheelkunde Amsterdam)から Prof. Frank Lobbezoo を招待し、”Obstructive Sleep Apnea & Bruxism”と題した 2 日間で合計 6 時間にも及ぶ基調講演が行われ、ブラキシズムと睡眠時無呼吸症候群の疫学から研究の歴史、診断、治療まで詳細な講演内容で会場満員の聴衆を釘づけにしていた。午後には“Bruxism”のシンポジウムが行われ、日本大学松戸歯学部の小見山 道先生がブラキシズムによる中枢神経系の変化について、徳島大学の松香芳三先生が三叉神経領域の難治性疼痛に対するボツリヌス療法の可能性について、そしてインドネシアの Dr. Leonard Nelwan がブラキシズム患者の補綴治療について講演した。



基調講演に熱心に聞き入る聴衆



診断推論を披露するレジデント

2 日目の朝には非歯原性疼痛のシンポジウムが行われ、和嶋浩一先生が臨床診断推論についての講演を行った後、プレカンファレンスの Workshop で導きだした診断推論をインドネシア大学のレジデントが発表し、村岡 渡先生と私が口腔顔面痛専門医の立場からそれぞれ実際の鑑別診断や検査法、診断基準などについて解説した。午後には睡眠医学を専門とする Dr. Rimawati Tedjasukmana を招待し、“Interaction between dentists and doctors in sleep lab team” と題したシンポジウムが行われ、インドネシアにおけるスリープラボの取り組みや睡眠障害の疫学、診断、治療、そして歯科医師との

関係構築について議論された。テーマのまとめとして行われた総合討論では講演者と聴衆との活発な質疑応答は 1 時間ほどにもわたり、そして穏やかに学会の幕が閉じられた。

テレビモニターを用いたポスターコンペティションでは、基礎研究部門で f-MRI を用いてブラキシズムによる脳の構造変化を明らかにした日本大学松戸歯学部の飯田 崇先生と、臨床研究部門では Numb chin syndrome を呈した下顎骨内扁平上皮癌の症例を報告した北海道の板橋基雅先生の発表が優秀ポスターに選考され表彰されました。おめでとうございます！さて、次回の AACMD 学術大会は、2018 年 10 月 13～14 日に“Sensitization & Masticatory Muscle Pain”というテーマで台湾の台北市で開催される予定です。Keynote speaker には Myofascial Pain の研究で著名な米国 NIH の Dr. Jay P. Shah を招待し、筋痛のメカニズムに迫る講演が行われる予定です。口腔顔面痛学会の先生方もぜひ今すぐカレンダーをブロックして、AACMD に新規入会していただき一緒に台湾に行きませんか？



テレビモニターによるポスター発表

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp